



平成 27 年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

平成27年度事業報告（平成27年4月1日から平成28年3月31日）

当社は、ホッカイドウ競馬を継続かつ安定的に運営し平成23年3月に北海道が策定した「北海道競馬推進プラン」を着実に推進するため、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源と屋内調教用坂路など競馬場施設の効率的利用を基本とし競馬事業の運営にあたった。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 第39回通常総会

平成27年6月26日

- ・平成26年度事業報告
- ・貸借対照表及び損益計算書、公益目的支出計画実施報告書について
- ・役員を選任について

(2) 理事会

ア 平成27年度第1回理事会

平成27年6月8日

- ・平成26年度事業報告
- ・貸借対照表及び損益計算書、公益目的支出計画実施報告書について
- ・役員を選任について

イ 平成27年度第2回理事会

平成27年6月26日

- ・理事長・副理事長・専務理事の選定について

ウ 平成27年度第3回理事会

平成27年9月8日

- ・平成27年度ホッカイドウ競馬開催状況について

エ 平成27年度第4回理事会

平成27年11月27日

- ・平成27年度ホッカイドウ競馬開催結果について
- ・平成28年度ホッカイドウ競馬開催日程（案）について

オ 平成27年度第5回理事会

平成28年3月28日

- ・事業運営の基本方針
- ・平成28年度事業計画案及び収支予算案
- ・規則の一部改正について

(3) 監査

監事監査

平成27年5月29日

- ・平成26年度事業報告並びに収支決算に係る監査

2. 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け業務を実施した。

(2) 開催日程について

平成27年度のホッカイドウ競馬は、全日程を門別競馬場グランシャリオナイターとして開催し、濃霧などの影響により14競走取り止めとなったが、南関東や他地区との相互発売、インターネット、電話投票などによる発売拡大に努め、発売額は169億13万円で、前年比：107.6%、計画比：113.5%という結果となった。

(15開催80日間 4月22日から11月12日)

また、非開催日においても、地方競馬(南関東・ばんえい競馬等)やJRAといった他主催者の場外発売により収益確保に努めた。

※6月25日・7月23日・7月28日の3日間で計5競走濃霧のため、10月8日は3競走以降の計9競走を強風のため競走取り止め

(3) 施設・設備の運用について

競走距離に変化を持たせ、競馬番組の充実を図るため、1,500mと1,600mの競走距離が施行可能となる内回りコースの運用を開始したほか、平成28年度に向けて照明施設を整備した。また、Aiba滝川の場外発売所をリニューアルオープン、Aiba札幌駅前については、現在も継続して整備中。

(ア) 内回りコース 1,500m 23競走、1,600m 61競走実施

(イ) Aiba滝川 平成27年4月20日リニューアルオープン

(4) 報償費について

報償費については、重賞競走体系の見直しにより本賞金全体を増額するとともに、馬資源を確保するため2歳馬の出走手当を6万5千円から8万円に、C4クラスの11開催以降の出走手当を5万円から6万円に増額した。

また、昨年に引き続き2歳馬の出走頭数の確保と他地区への転入条件を緩和することから、12開催以降における未勝利競走の賞金を増額したほか、騎手、きゅう務員手当をそれぞれ500円増額した。

なお、(一社)ジャパンプリーダーズカップ協会(以下「JBC協会」という。)などから1着報償金などの支援を頂き魅力ある競馬番組の提供に努めた。

(5) 発売拡大の取り組み

門別競馬場が主場化となって7年目を迎えることから7周年記念イベントを実施するとともに、道外発売については、馬柱等の情報提供の拡充を図りながら、南関東との連携強化はもとより、東海地域をはじめ、他地域での発売拡大にも取り組むとともに、既存の電話投票やインターネット、JRA即パットにより発売拡大に努めた。

さらには、場外発売所において引き続きJRA発売を実施し、収益確保とJRAFァンの取り込みに努めた。

ア グランシャリオナイトー7周年記念イベント

ホッカイドウ競馬が7周年を迎えることから「グランシャリオナイトー 7th Dream」をテーマに「7」をキーワードとした各種イベントを実施した。

主なイベントとしては、7周年グッズの作成、7周年グルメ企画など「7」をキーワードとした各種イベントを実施した。

“7”の付く7th Dreamイベントとして

- ・ ななつぼし777チャレンジ（8月11日）
- ・ 日高町の特産品合計重量当て（8月13日）
- ・ 7つの謎を解け！門別競馬場クイズラリー！（9月22日・23日）

イ 他主催者との連携強化による相互発売

南関東（大井・川崎）とホッカイドウ競馬の相互発売拡大を図る目的から、実施されている川崎競馬場における全レース発売や、大井競馬場ナイトー3レース発売を実施するとともに、船橋競馬場のナイトー化に併せ後半3レースの相互発売を実施した。

また、他地区での場外発売所の整備に伴い、場間場外発売の拡大によりさらなる発売拡大に努めた。

ウ 電話・インターネット投票

情報提供の拡充などを積極的に推進し、好調に推移しているインターネット投票による発売拡大に努めるとともに、JRA即パットの発売日数を引き続き、60日間（昨年実績55日間）実施した。

エ 全国発売競走

全国重賞シリーズであるグランダム・ジャパン、ダービーWeek、スーパースプリント競走、未来優駿などのシリーズ競走に参画し、全国発売による発売拡大を図った。

オ JRA 発売

ホッカイドウ競馬の場外発売所におけるJRA全レースを発売（Aiba札幌中央はメインレースのみ）（108日間：昨年106日間）するとともに、昨年に引き続きG1競走の前売り発売をすることにより更なる収益確保に努めた。

（6）競馬番組について

競馬番組は、競馬事業の根幹部分であることから、ファンに魅力ある競走を提供していくことが重要である。

ホッカイドウ競馬は他の地方競馬とは異なり、2歳馬戦が競走の約4割を占め、その翌年には全国の競馬場へ多くの活躍馬を輩出し、全国の競馬ファン等から注目されている中で、内回りコースの新設により段階的に距離経験を課すための1，5

00mと1,600mの競走が可能となったことから、古馬を含めた競走距離体系の見直しを行うとともに、新たな競走距離の編成により牝馬の流通促進策の一助として牝馬限定の重賞競走の新設を含む重賞競走体系を改編した。

また、年間を通じた2歳馬の概定番組を発表することとし、馬主及び調教師等の関係者が出走させやすい環境を整えるとともに、競馬ファンが注目する魅力ある競馬番組づくりに努めた。

ア 競走距離体系の見直し

内回りコースの設置により競走距離の基本である1,600mの競走が可能となったことから、これまでの短・中・長距離の各区分については、スプリント・マイル・中距離の区分に見直した。

イ 重賞競走の格付けの見直し

現行のH1・H2・H3の格付け毎の競走数を是正し、ピラミッド型の競走数(H1:3競走、H2:7競走、H3:13競走)に改めるとともに、3歳以上の重賞競走及び牝馬限定重賞競走の2競走を新設し、産地に立脚したホッカイドウ競馬の特色を強く打ち出し、さらなる牝馬の流通促進策の一助とした。

ウ JRA 認定競走

JRA協力金のもと、認定競走を112競走実施した。

- ・重賞競走 9競走(26年度 9競走)
- ・ウィナーズ 14競走(〃 14競走)
- ・フレッシュ 54競走(〃 55競走)
- ・アタック 35競走(〃 35競走)

エ マイル重賞競走の新設

牝馬の馬名登録頭数が6割余を占めることや流通の活性化を図るため、牝馬限定の重賞競走を新設した。

・AIR DO賞 ヒダカソウカップ(H3) 株式会社AIRDO賞

(施行日5月21日 距離1,600m 1着本賞金500万円)

古馬のマイル路線の最終レースとして、マイルの優秀馬を決定する重賞競走を新設した。

・ホクレン杯 旭岳賞(H3) ホクレン農業協同組合連合会賞

(施行日9月15日 距離1,600m 1着本賞金300万円)

オ 重賞競走への格上げ

古馬の効果的な競走体系を確立するため、グランシャリオ門別スプリントを重賞競走に格上げした。

・地方競馬SSS グランシャリオ門別スプリント(H3)

(施行日 6月25日 距離 1,000m 1着本賞金 250万円)

カ JBC 協会協賛事業

(ア)スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着し、全国から注目されているスタリオンシリーズ競走を、JBC協会のご支援のもと全46競走実施した。

(総額 5,920万円相当)

・重賞競走	23競走
・2歳	5競走
・3歳・3歳以上	6競走
・スタリオンプレミアムシリーズ競走	12競走

(イ)JBC協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」

きゅう舎関係者の技術向上と意欲の向上を図るため、JBC協会のご支援のもと重賞競走及び2歳条件競走で優勝したきゅう舎に特別賞を交付するJBC協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」を新たに設けた。

・対象競走

2歳重賞競走	9競走
3歳重賞競走	3競走
2歳条件競走	第11回以降 1～5組 22競走

・交付金

重賞競走	10万円
2歳条件競走	5万円

キ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の継続と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営安定化に資する観点から、日本軽種馬協会の支援のもと実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全52競走を実施した。

ク 平成27年度2歳優良馬導入促進事業の実施

良質な2歳馬の地方競馬への早期入厩促進を図ることを目的に、地方競馬全国協会が実施する事業を活用し、2歳限定競走(JRA認定競走を除く)において付加賞金を1着馬から3着馬までの馬主に贈呈した。

- ・付加賞金(進上金、番組賞金加算対象外)
1着 50万円、2着 10万円、3着 7.5万円
- ・実施競走数 42競走

ケ 地方競馬全国協会シリーズ競走への参加

・スーパースプリントシリーズ

短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパースプリントシリーズ」へ

参加。

- ・対象競走「グランシャリオ門別スプリント（エスポワールシチー賞）」賞金 250万円
実施日 6月25日（木）距離 1,000m
北海道・岩手ブロック競走として実施

・グランダム・ジャパン

牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズグランダム・ジャパン」に参加。

- ・対象競走「ノースインカップ（ゴールドアリュール賞）」1着賞金 300万円
実施日 7月22日（水）距離 1,800m
- ・対象競走「フリーガースゴールドカップ」1着賞金 2,500万円
実施日 8月13日（木）距離 2,000m
- ・対象競走「エーテルリス賞」1着賞金 2,000万円
実施日 10月15日（木）距離 1,200m

・ダービーWeek

ジャパンダートダービーに向けた地方競馬の3歳重賞体系整備を目的とし、全国6カ所で実施されるダービーWeekシリーズに参加。

- ・対象競走「北海優駿(ダービー)（エイシフラッシュ賞）」1着賞金 500万円
実施日 6月2日（火）距離 2,000m

・未来優駿2015

兵庫ジュニアグランプリや全日本2歳優駿に向けた2歳重賞体系整備を目的に設定され、全国7カ所で実施される「未来優駿」に参加。

- ・対象競走「サポロクラシックカップ（ハービュース賞）」1着賞金 300万円
実施日 10月20日（火）距離 1,200m

(7) ファンサービスについて

門別競馬場が主場化・ナイター開催となって7年目を迎え、これまでの取り組みを踏まえ、インターネット及びスポーツ新聞を利用した情報提供など道内外ファンへの情報提供の充実や、来場者に対するホスピタリティの高いファンサービスの提供などにより、更なるファン拡大と発売促進に努めた。

ア ポイントカードの全道展開

平成26年度、門別競馬場で実施したポイントカードが来場者に好評だったことから、新たに道内16ヶ所でポイントカードサービスを実施し来場促進を図った。

- ・来場ポイントカードUmacaを発行、獲得ポイント数に応じたプレゼントキャ

ペーンを実施した。(カード会員数2,000人強、賞金総額100万円)

イ 施設場内サービスの充実

門別競馬場および道内15ヶ所場外発売所において公衆無線LAN(Wi-Fi)の設置や場内案内表示のリニューアルなど、より一層皆様に競馬を楽しんでいただけるよう、場内環境の改善を図った。

ウ リーディングジョッキーボードの設置

門別競馬場に訪れる来場者に対して、リアルタイムで現在のジョッキーの順位や勝利数が分かるリーディングジョッキーボードを設置した。

エ 誘導馬テン太とのふれあいイベントの実施

第1レースが始まる前の時間帯を利用して、誘導馬テン太との写真撮影など、ファンとテン太とのふれあいの場を提供した。

オ 地域で活躍している著名人、団体との連携

特異日において、地域で活躍する著名人や団体に来場いただき、ファンファーレ演奏や誘導馬騎乗、プレゼンターなど地域と連携した取り組みを進めた。

- ・ホッカイドウ競馬オフィシャルサポーター

THE TON-UP MOTORS、しろっふ、HOSH1☆スターピースによるイベント

- ・ファンファーレ

富川高校吹奏楽部 フローラルカップ (9月22日)

静内高校吹奏楽部 ブリーダーズゴールドカップ (8月13日)

道営記念 (11月12日)

- ・プレゼンター

THE TON-UP MOTORS、しろっふ

カ イベント広場の活用

グループでの来場を促進するため、好評のジンギスカンハウスを拡充する他、ログハウスでのオリジナルグッズ、オリジナルスイーツの販売を実施した。

また、北海道の四季に合わせた春・夏・秋のケイバまつりを実施するとともに、「ひだか特産市」など地元食材や観光PRを合わせて実施することにより、日高管内及び門別競馬場のPRに努めた。

・春のケイバまつり 4月29日・5月5日・6日

・シュエット・ジュマン・フェスティバル 8月11日・12日・13日

・秋の収穫祭 9月22日・23日

キ 道内場外でのファンイベント

全道の場外発売所でAiba祭などのファンサービスを実施し、場外発売所の集客拡大を図った。

- ・ A i b a 滝川まつりリニューアルイベント（8月27日）
各種抽選会・飲食の提供ほか
- ・ 秋の全道 A i b a 祭り（9月22日・23日・24日）
来場者プレゼント（日高昆布・ファイターズ缶）、各種抽選会ほか
- ・ ファイナルデーファンプレゼント（11月12日）
増毛産りんごプレゼント

ク オフィシャルホームページの改修

インターネットユーザーに対し、より多くの情報を提供するため、ホッカイドウ競馬オフィシャルホームページに、新たに騎手別成績一覧表、トピックス改善（項目別のタブ設置、動画埋め込み）、払戻一覧表の改善を行い、更なるファン拡大策及び購買意欲の向上を図った。

- ・ 7 t h D r e a m ホッカイドウ競馬特設サイトの開設

ケ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移しているインターネット及び電話投票の発売拡大策を図るため、札幌馬主協会様等からのご支援により、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を行った。

（サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、

東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ、九州スポーツ 8紙2レース掲載）

また、週刊競馬ブックでの重賞競走馬柱掲載やブックオンライン（ホームページ）から重賞予想データ無料ダウンロードを実施した。

コ SPAT4 との連携

南関東電話投票（SPAT4）との連携により、会員へのメール配信・ホッカイドウ競馬情報の郵送・動画配信やプレミアムポイントキャンペーンの実施により発売拡大を図った。

- ・ 特別競走施行日に、会員参加のツアーが実施された。（9月23日）

サ 札幌からの無料送迎バス運行

開催日（80日間）に札幌駅北口から門別競馬場までの無料送迎バスを毎日運行し、札幌圏から門別競馬場への来場促進を図るとともに、来場者が多く見込まれる“ケイバまつり”等には臨時便を運行するなど、効果的な集客策に努めた。

（総乗車数 延べ2, 592人 対前年比 121.1%）

(8) 北海道著名企業とのコラボレーション

これまでのサッポロビール、ソメスサドル及びコンサドーレ札幌に加え、北海道を代表する企業とのコラボレーションをより一層図り、7周年を記念して「MADE IN HOKKAIDO KEIBA」と打ち出し、オール北海道として様々なイベントを実施

し、ホッカイドウ競馬により親しめるよう、著名企業とのタイアップを積極的に推進した。

また、企業との連携を強化するため、パドック内の横断幕を企業のロゴ幕に限定し、これまでの応援幕については、ゴール前フェンスに掲示した。

- ・AIRDO、ホクレンなどコラボレーションを強化、協賛競走当日にイベントを実施するなど積極的に連携を図った。

(9) 門別競馬場を活用した馬産地の活性化（公益目的実施事業）

法人移行に合わせて公益目的実施事業として、軽種馬生産の振興と馬産地の活性化に資するための各種イベントを実施した。

- ・シュエット・シユマン・フェスティバル(ポニー体験乗馬、ヤマメすくい、ちびっこ縁日ほか)
- ・秋の収穫祭(ポニー体験乗馬、ひだか特産市)

(10) 門別競馬場団体来場者の誘致

旅行代理店が運営している日高バスツアー行程の一つとして、門別競馬場を提供し、団体客の来場促進を図り、門別競馬場の認知度向上に努めた。

附属明細書

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般社団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。